

FLC - 様々な活動を -

共に生きる社会の実現を目標に

綾瀬市内の中学で福祉講演など

0人ほどで、障害を持たない会員が約半数だ。

西川和朗さん(60)は、85年のFLC発足当初からのメンバー。28歳の時に車にはねられ、頸髄(けいずい)を損傷し、車いすを使うことになった。最近の活動はピアサポートが中心だ。

綾瀬市を拠点に活動するFLC (Friendly Life Community・金子寿代表)は、「障害のある人もない人も、お年寄りも若い人も、共に生きる社会」の実現を目標に、福祉講演や車いすの体験講習、障害を負った人や家族への支援や相談をするピアサポート、車いすの寄贈など、多彩な活動に取り組む。会員は10

りへの関心を高めたい」と力を注ぐ活動だ。

綾瀬市立綾北中学校(田村繁校長)では、10年以上前から「いのち」の教育に取り組み、毎年1年生が金子さんの講演を聞き、車い

すの体験をする。

3月に行われた講演のテーマは「希望を持って生きる」。頸髄損傷で一時は絶望し、やがて「一度きりの人生を大切にしたい」と立ち直った半生に触れた後、

「つらいことがあっても絶対に諦めないで！」と生徒たちにエールを送った金子さんは、最後に「相手に思いやりを持って接する、心のバリアフリーを大切に」と訴えて結んだ。

クイズを出したり、自身の生活の様子を写真やビデオで見せるなどして、生徒たちにわかりやすく伝えた。

次に生徒全員が車いすを体験。僅かな段差にも苦労し「思ったより大変！」との声が上がる。金子さんが「これからつらいこともありすが、一度きりの人生、一生懸命生きてください」と語った綾北中での福祉講演



た。